

第7回若手研究者育成のためのワークショップ
「若手研究者によるバイオフィルム研究ワークショップ」
終了報告書

平成25年6月2日日曜日、第7回若手研究者育成のためのワークショップ「若手研究者によるバイオフィルム研究ワークショップ」を開催し、無事に終了致しましたので、ご報告申し上げます。

本ワークショップは国立感染症研究所（東京都新宿区戸山）にて10:00より17:30まで開催されました。参加者は96名、発表演題は講演12題ポスター15題、合計27演題の発表が行われました。本会は、医学細菌学のバイオフィルム研究者だけではなく、工学、農学領域を専門領域としている多数の研究者に参加をいただきサブタイトルに「学際領域におけるバイオフィルム研究の新展開」と謳っている通り、学際領域における新たな知見を共有してもらうことを主眼において開催致しました。

第1部では口腔細菌研究者によるバイオフィルム研究の演題を中心に集めました。ここでは、口腔の2大感染症であるう蝕および歯周病のバイオフィルム研究を中心に最新の研究発表が行われました。九州歯科大学の吉田明弘からはう蝕細菌 *Streptococcus mutans* が歯の表面の初期定着菌と競合する機構について、愛知学院大学の吉田康夫先生からは口腔微生物のバイオフィルム形成における環状ヌクレオチドの効果について、東京歯科大学の菊池有一郎先生からは歯周病細菌のバイオフィルム形成とシグマ因子の関連について、国立感染症研の中尾龍馬先生からはプラスミド遺伝子 *kil* が大腸菌のバイオフィルム形成に及ぼす影響についてご講演いただきました。

第2部では農学、工学を中心としたバイオフィルム研究についてご発表いただきました。筑波大学の尾花望先生からは、嫌気性芽胞形性菌における温度に応答したバイオフィルム形成について、宇都宮大学の諸星知広先生からは植物共生細菌におけるクオラムセンシングシグナリングの解析について、群馬大学の平川秀忠先生からはアシルホモセリンラクトンによる細菌間コミュニケーションについて、日本大学の古川壮一先生からは食品関連微生物のバイオフィルム形成について、横浜国立大学の福田淳二先生からはマイクロデバイスを用いた細胞アッセイについてご講演いただきました。

第3部では医学関連のバイオフィルム研究についてご発表いただきました。杏林大学の米澤英雄先生からはヘリコバクター・ピロリのバイオフィルム形成について、早稲田大学の松本慎也先生からは細菌の細胞分裂活性を指標とした dormant persister cell の解析について、東邦大学の木村聡一郎先生からは緑膿菌の細菌内・細菌間情報伝達分子と病原性との関連についてご講演いただきました。

このようにバイオフィルム研究を軸とした多分野の若手研究者にご発表いただくことを目的にしましたため、演題数も多く、かつ非常に密度が濃いタイトなスケジュールとなりましたが、参加者の皆様には最後まで活発に討論していただき、非常に活気のある有意義なワークショップになったと思います。また、座長の先生方にも非常にご尽力いただき、若手研究者の今後の育成のため貴重なご助言をいただきました。

口演発表以外に休憩時間や交流会においてもポスター発表が行われ、非常に活発な討論が行われました。

このように非常に密度の高い1日でしたが、様々な学際分野の研究者が一同に会し、発表・討論する機会は非常に貴重で、またこのような機会を設けて欲しいという意見をいただきました。

本ワークショップは、日本細菌学会「平成25年度若手研究者育成のためのワークショップ」に採択され、本学会から全面的な支援を受けて開催されたものであり、本ワークショップへのご支援について、日本細菌学会理事会及び会員の皆様に心より感謝申し上げます。若手研究者の活性化や教育のためには、このような形式でのワークショップを継続して行うことは非常に重要なことだと考えております。引き続き、本ワークショップの継続的な開催へのご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

平成25年6月3日

第7回若手研究者育成のためのワークショップ

「若手研究者によるバイオフィルム研究ワークショップ」

世話人

吉田明弘（九州歯科大学）

泉福英信（国立感染症研究所）